

## 第1回地域国際化推進検討委員会議事要旨

- 1 日 時 平成14年11月1日(金) 15:00~17:00
- 2 場 所 東京都庁第一本庁舎33階特別会議室N2
- 3 出席者 【委員】  
アイ・クスハヤティ委員、浦野委員、呉委員、小作委員、梶村委員、金委員、クリスチャン・ポラック委員、坂井委員、柳澤孝志委員、柳澤美香委員  
【事務局】  
三宅生活文化局長、保持生活文化局文化振興部参事、藤井生活文化局文化振興部事業推進課長  
【オブザーバー】  
藤田産業労働局観光部振興課長  
【傍聴者】  
8名
- 4 議 題
  1. 委員長・副委員長の選任
  2. 委員会への諮問
  3. 委員会の進め方
  4. 外国語表記に関する取組状況
  5. 意見交換
  6. その他
- 5 配付資料 資料 1 地域国際化推進検討委員会委員名簿  
資料 2 地域国際化推進検討委員会設置要綱  
資料 3 諮問事項について  
資料 4 地域国際化推進検討委員会及び連絡会議の進め方  
資料 5 地域国際化推進連絡会議委員名簿  
資料 6 東京の外国人登録者数と外客数の推移  
資料 7 外国人へのアンケート結果  
資料 8 東京都及び区市町村のまちの表示に関する取組  
資料 9 標準案内用図記号一覧  
資料10 様々な案内表示  
資料11 外国人観光客に対応できる案内所  
参考 1 都民による意見の概要  
参考 2 外国人都民会議におけるまちの表示に関する発言  
抜粋

## 6 会議内容

1. 事務局より委員の紹介後、三宅生活文化局長の挨拶
2. 要綱に基づき委員長、副委員長の選任が行われ、浦野委員を委員長に、小作委員を副委員長にそれぞれ選出
3. 事務局から委員会の進め方、まちの表示に関する取組状況について配付資料を含めて説明



## 7 意見等

- 〔委員長〕 ・最終的には「外国人にもわかりやすいまちの表記ガイド(仮称)」を提出することが、この委員会の目標になる。
- ・そのために、3つのポイントについて検討したい。
  - 1つ目は、どのような言語を用いて表記するかという「方法」について。
  - 2つ目は、どのような施設、場所に外国人に配慮した表記が必要かという「対象」について。
  - 3つ目は、事業者・観光客・居住者に対して表記を広く活用してもらうための「普及」について。

### <表記の方法について>

- 〔委員〕 ・たくさんの言語を表記するのは限度があるのでどこかに絞らなければならない。
- 〔委員〕 ・インドネシアなどアジアの国の人の場合、漢字はわからない人が多いのでローマ字で表記されている方が安心感がある。
- 〔委員〕 ・住居表示や案内板の場合、ほとんどローマ字か英語で併記されている。
- ・案内板はカラーで見やすいものが昔に比べ安く作れるようになっている。
- 〔委員〕 ・フランスの場合は、ほとんどフランス語と英語の表記になっている。

- 〔委員〕 ・第1次的に優先すべきはローマ字併記だ。  
・台湾や東南アジアの華僑の人の場合、日本の漢字の方が簡体字より分かりやすい。  
・外国旅行へ行く経済的レベルや必要性を考えた場合、大多数の外国人はローマ字を知っているのではないか。  
・地名についてはローマ字だけでよい。
- 〔委員〕 ・ローマ字の分からない人に、ローマ字を読めるように最初のガイダンスがあるといい。
- 〔委員〕 ・シンガポールの場合、4言語（マレー語、英語、中国語、タミール語）が公用語になっているので、住居地では看板を4分割して併記している。
- 〔委員〕 ・JR東日本では、韓国や中国からの客が増えてきたため山手線の大きな駅など外国人が多い駅には、ローマ字に加えハングルと中国語の4カ国語表記にしている。
- 〔委員〕 ・韓国の場合漢字が全くわからずローマ字にもなじみがなく、中国語も大陸の場合日本の漢字とは別の漢字（簡体字）が使われているので、ローマ字・韓国語・中国語が最低限必要ではないか。
- 〔委員〕 ・荒川区の場合韓国・中国系の人が多いが、その方達への表示はほとんど無いのが現実だ。
- 〔委員〕 ・例えば地下鉄の路線図の場合、大きくみやすいものを各言語ごとに作って欲しい。
- 〔委員〕 ・シンガポールの場合、交通機関などの公共的なエリアについては、特定の言語だけに配慮するのは問題があるので、絵で見て見ただ目でわかるようなピクトグラム（絵文字）を活用している。
- 〔委員〕 ・JR東日本では、ピクトグラムを活用して見ただ目でわかるような工夫もしている。
- 〔委員〕 ・絵（ピクトグラム）の場合、何の意味か分からないことがある。
- 〔委員長〕 ・表記に用いる言語の種類についての意見は、日本語とローマ字、日本語・ローマ字・ハングル・中国語（簡体字）の二つの水準に整理される。

<どこに表記すべきか>

〔委員〕 ・東京は地下鉄・電車が多いので、英語だけでなく韓国語や中国語など利用者が多い国の言語を使って乗り換え方法などを案内して欲しい。

〔委員〕 ・駅の表示については、少なすぎる意見もある一方文字が多すぎて文字が小さいという意見もあり、日本語についても難しい。

・トイレや改札口など最低限分からなければならないところを日本語・英語・ハングル・中国語で案内している。

〔委員〕 ・道案内をする場合、曲がる場所などが標識等ではっきり示されていると説明する側も説明しやすいし、外国人もそれを頼りに行動できると思う。



・最新車両の画面表示のように IT 技術を取り入れて、より多くの情報をわかりやすく案内できるようにすることも必要だ。

〔委員〕 ・地下鉄など構内から外に出たときにどの方向に行けばよいかという部分で、地図は役立つと思うので、出口に地図があるといい。

〔委員〕 ・観光客が多い場所の表記が大事だろうが、長い期間日本に住んでいても漢字は難しいので、居住者に配慮した表記も必要。

・日本人にもわかりやすいという意識で表記などを行えば、外国人にも分かりやすくなる。

〔委員〕 ・東京の道などは日本人にも大変難しい。外国人、日本人関係なく住民のために案内しやすい方法を考えなければならない。

〔委員〕 ・どこに外国語表記を行うかについては、どれだけの人が来てどれだけお金を落としているかを選択の基準とするより無い。

〔委員〕 ・観光客など人が多く行く場所での誘導案内と、地域の中で生活している人への誘導案内は基本的に異なるのではないかな。

・まちの中は道が複雑なところがたくさん残っているので、駅前や観光地ほど多くの人が行かない場所でも、的確に目的地に行けるような誘導表示をしていくことが行政としては大事だと考えている。

〔委員〕・防災の観点からみると、いざというときには観光客に対しても、少し地域に入り込んだ避難場所や避難所に誘導しなければならない場面が出てくる。

〔委員〕・東京がさらに観光化するという場合、従来日本人にもあまり知られていない所だが歴史的には意味があるような場所にも観光客を誘導していく仕組みをつくることが重要だ。

〔委員〕・その場合、どのように外国人へ情報を提供するかという問題がある。

〔委員〕・一番の情報源は駅だ。

〔委員〕・例えばごみの出し方など、実際に生活している人のためのどの様な表示板をつくれればいいのかということも出てくる。

#### <インフォメーションセンターについて>

〔委員〕・日本の場合、インフォメーションセンターが駅の分かりやすい場所に無い。

・地図やパンフレットがもらえ様々な情報を提供してもらえるインフォメーションセンターが入り口となって、様々な場所に向かうことができる。

〔委員〕・今回のワールドカップ開催を契機に、都内の主要駅（JR）にインフォメーションセンターを設置し、英語対応も可能とした。

・ポイント、ポイントにインフォメーションセンターがあるのは理想的だ。



〔委員〕・駅の真ん中や出口の正面にインフォメーションセンターがあると、魅力的な街になるしとても助かる。

・インフォメーションセンターに目立つサインをつけて、場所が分かりやすいようにしておく。

〔委員〕・成田空港は税関から出てすぐに案内所があり地図をもらえ

て便利だ。

〔委員〕・インフォメーションセンターや地図の置いてある場所といった情報源に、しっかり誘導していくことが重要だ。

〈どのように表記を普及するか〉

〔委員〕・観光客や短期滞在の人が主な対象だろう。

〔委員〕・かつて、シンガポールに多く訪れる日本人への案内表記について検討された際、日本人が多く行くホテルなどの観光施設や観光地の日本語案内については、事業者任せるということが決められた。

〔委員〕・外国の場合、民間が自ら外国人客を引きつけるために外国語表記を行っているのが普通だ。

〔委員〕・観光客にせよ居住者にせよ、基本的な情報は得ておくなど自分で努力しなければいけない部分もある。

〔委員長〕・「表記ガイド」というのは、公だけでなく民間がそれを参考にして自ら外国人にも分かりやすい表記をしていくよう誘導し、一般の人も表記を活用できるようにするのが大きな目的になる。